

トマト（夏秋被覆栽培）の病害虫の発生状況（8月中下旬）

1 灰色かび病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でしたが一部では発病度の高いほ場が確認されています(図1)。高湿度条件下で発生しやすくなるため、換気を十分に行ってください。果実にゴーストスポットが発生した場合、商品価値を大きく低下させるため注意が必要です(写真1)。

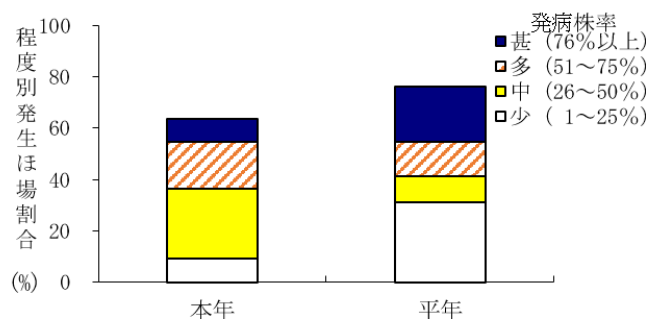


図1 灰色かび病の発生状況

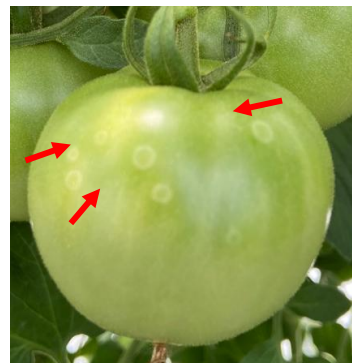


写真1 トマト果実に発生したゴーストスポット

2 葉かび病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした(図2)。高湿度条件下で発生しやすくなるため注意してください。葉かび病抵抗性品種もありますが、これらの品種を侵す菌のレースが存在しますので、抵抗性品種を作付けしているほ場でも発病がみられた場合には、適切な薬剤を選択して防除してください。

すすかび病と病徴が似ているので、葉かび病かすすかび病かを確認した上、適切な薬剤を選択して防除してください。

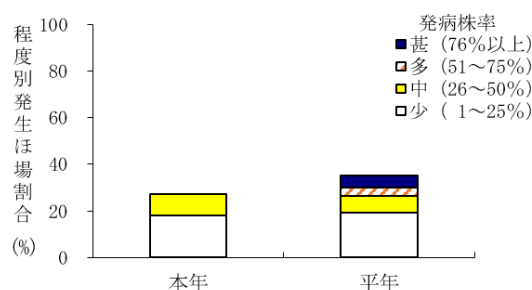


図2 葉かび病の発生状況

3 すずかび病

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした(図3)。多湿条件で、発生しやすくなるため換気を十分に行ってください。葉かび病よりも高温期に発生が見られます。発病が見られた場合には、適切な薬剤を選択して防除してください。

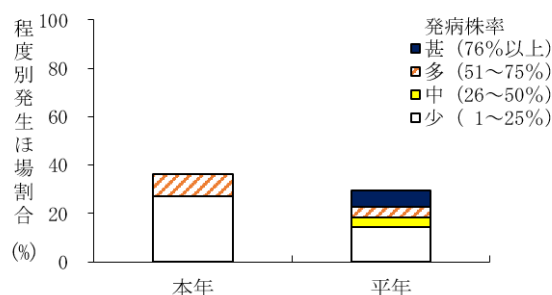


図3 すずかび病の発生状況

4 コナジラミ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図4）。寄生種がタバココナジラミの場合は、着色異常果の発生やトマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するので注意してください。まん延すると防除が困難になるので、低密度時から防除を実施してください。

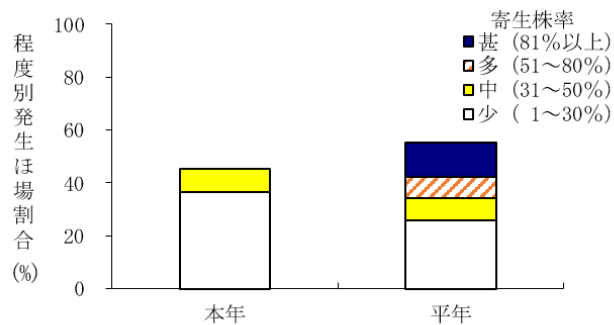


図4 コナジラミ類の発生状況

5 ハモグリバエ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図5）。まん延すると防除が困難になるので、発生が見られる場合には、低密度時から防除を実施してください。

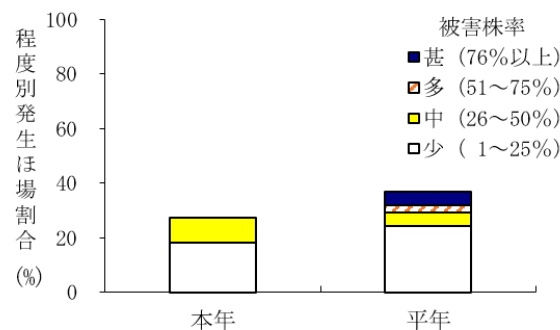


図5 ハモグリバエ類の発生状況

6 オオタバコガ

巡回調査での発生ほ場割合は、平年並でした（図6）。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください（写真3）。

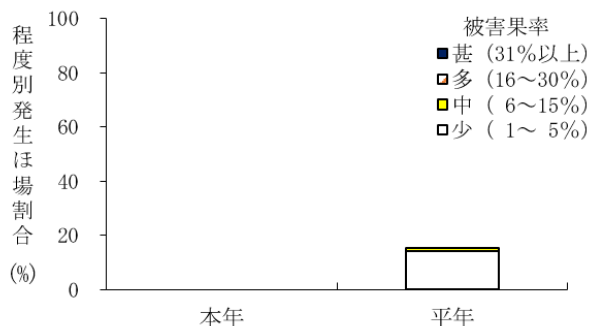


図6 オオタバコガの果実被害発生状況



写真3 果実を食害するオオタバコガ

注意が必要な病害虫

■トマトキバガ

8月中下旬のトマトの調査にて、トマトキバガによる葉の食害が確認されています。葉や果実の被害痕をよく観察し、今後の発生に注意してください。また、被害残さはビニール袋等に入れて蒸し込みし、完全に死滅させてから処分してください。



写真1 トマトキバガ成虫



写真2 トマトキバガによる葉の食害痕



写真3 トマトキバガ幼虫（体長5～8mm）

※ 夏秋トマトの巡回調査では、下記の 11 ほ場を調査しています。

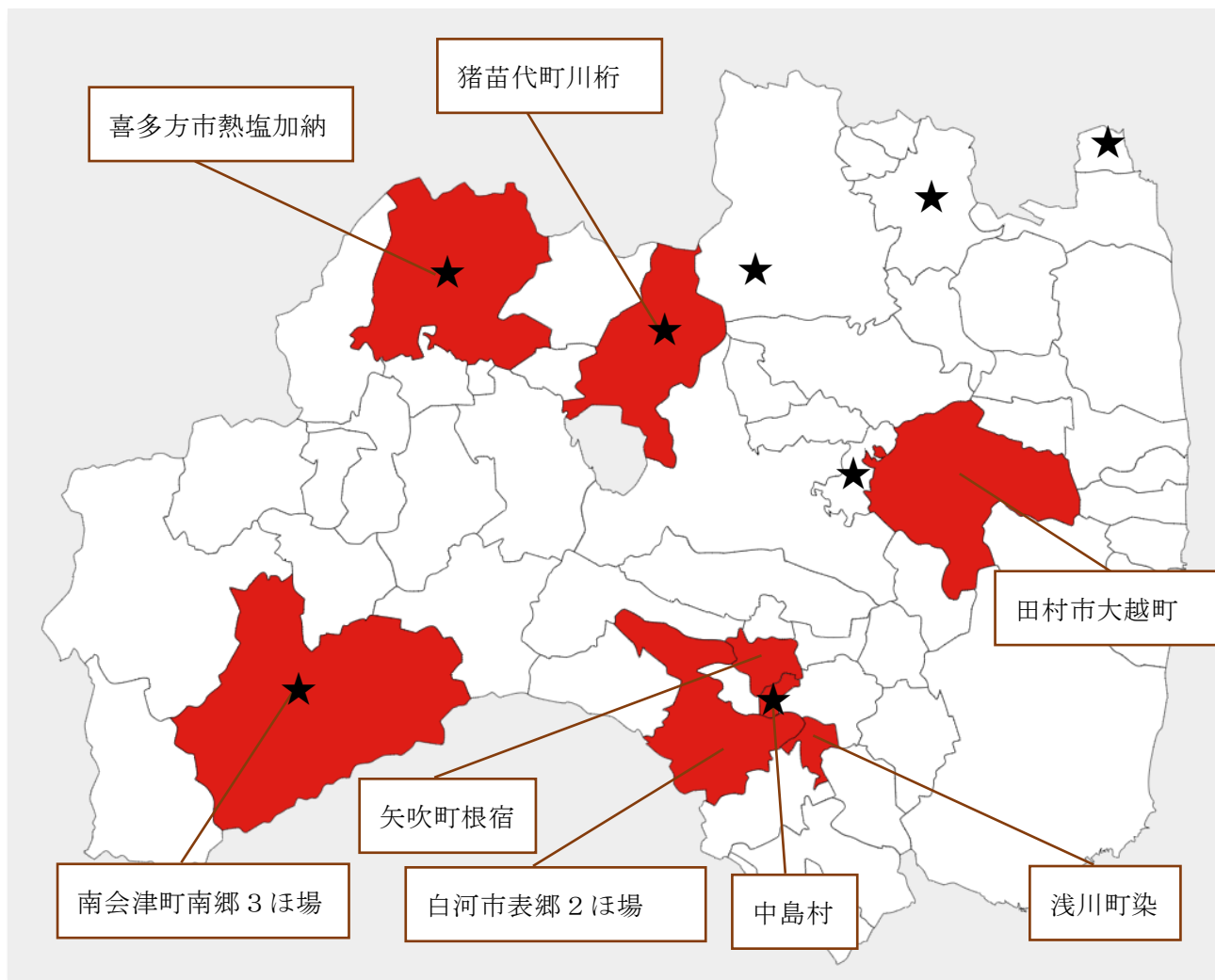


図 夏秋トマトの巡回調査地点

※網掛け：夏秋トマト巡回調査地点、8 市町村、11 地点

※★：オオタバコガのフェロモントラップ調査地点、8 地点

● 情報内容への質問や要望は、福島県病虫害防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp